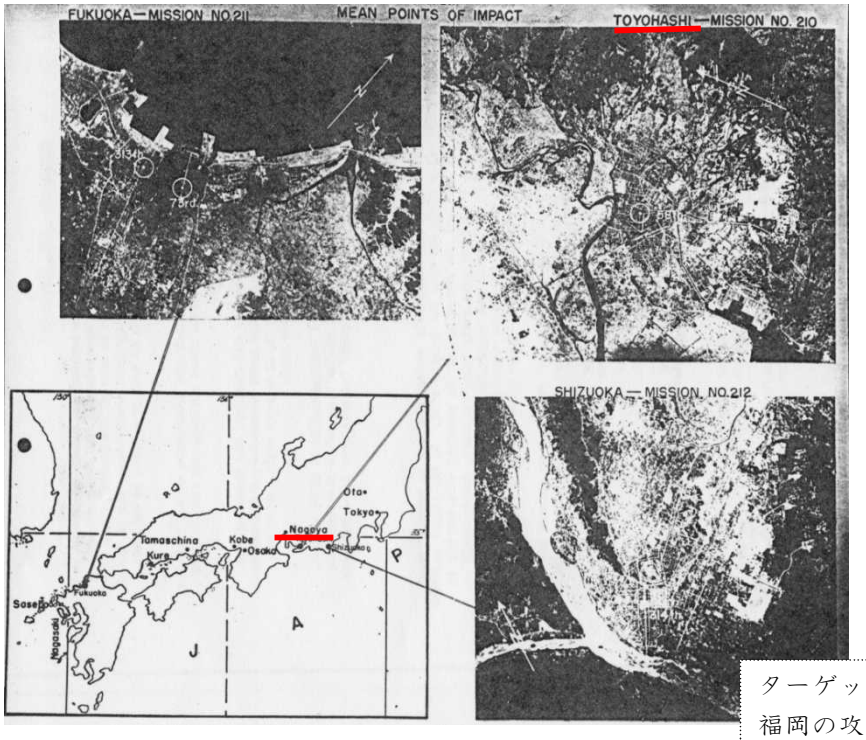
中小都市攻撃目標 2番目・豊橋空襲



ターゲット 2 番目、豊橋・静岡・福岡の攻撃目標写真『戦術作戦任務報告』アメリカ公文書館蔵

中小都市 1 番目の攻撃が浜松なら、豊橋は 2 番目になる。

豊橋・静岡・福岡が同時にねらわれた。

6 月 19 日、144 機のＢ29 はマリアナのサイパン基地を飛び立った。豊橋へは、午後 11 時 43 分焼夷弾投下。

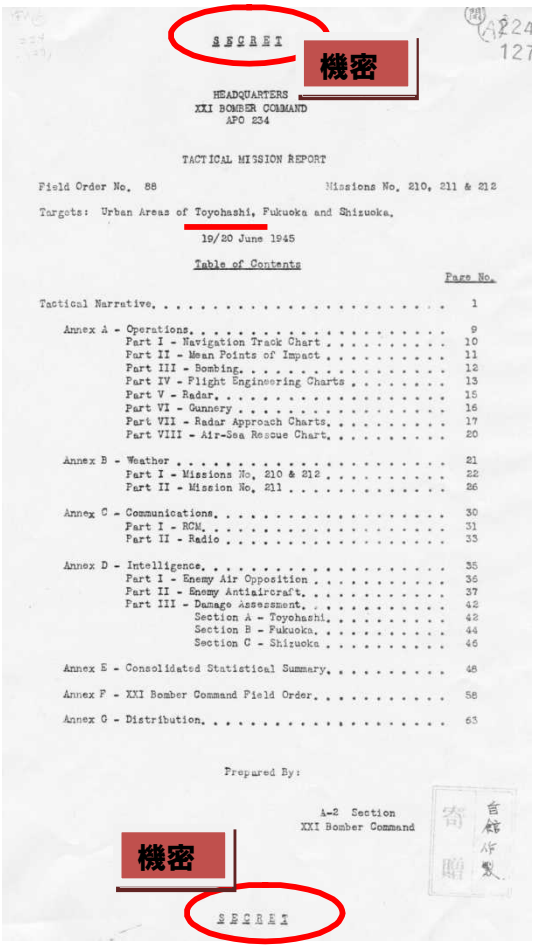
アメリカ軍は、攻撃対象を上空から写真撮影・気象状況把握・攻撃ポイントを定め、万全を期した攻撃であった。

アメリカ公文書から見た豊橋空襲

豊橋空襲に関するアメリカ公文書、『戦術作戦任務報告』には、豊橋・福岡・静岡の 3 都市の戦果が書かれている。豊橋投下焼夷弾 14, 889 発。20 日午前 3 時 17 分作戦終了。

豊橋空襲の死者 624 人。被災者約 70, 000 人。その後、2 次災害で赤痢発生。秋までに 385 人が亡くなった。

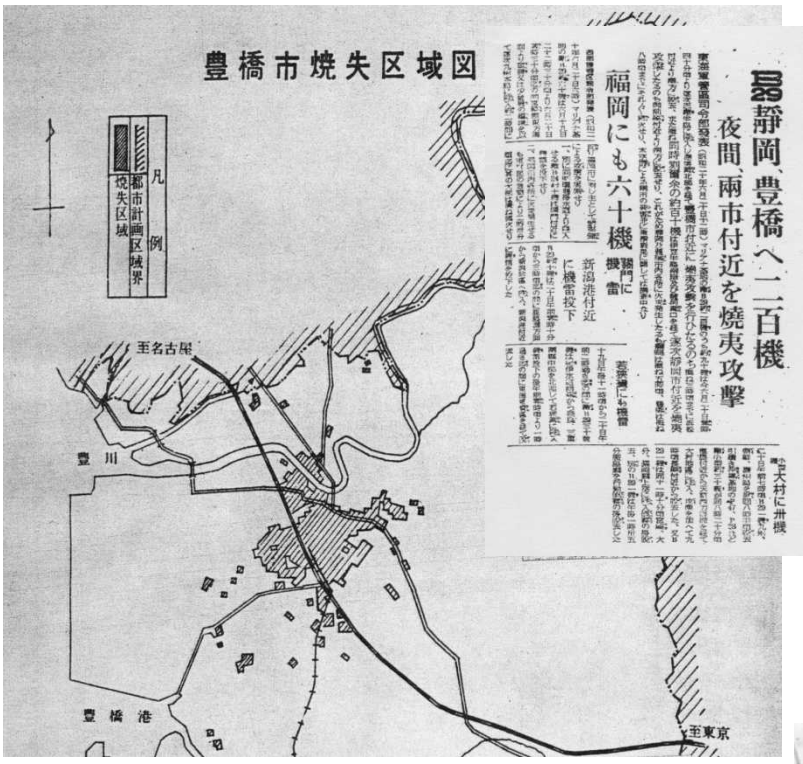
市街地の 70%焼失。



豊橋のﾐｯｼｮﾝﾅﾝﾊﾞｰは 210。ｼｰｸﾚｯﾄ（機密）の文字が報告書の上下にあり。上、右『戦術作戦任務報告』アメリカ公文書館蔵

6 月の空襲以外に

1945 年（昭和 20）2 月 15 日に 10 人、4 月 15 日に 30 人、5 月 19 日に 5 人の死者。空襲犠牲者数計 1,054 人。



豊橋空襲を伝える中日新聞記事と焼失区域図
『豊橋の 60 年』豊橋市刊

B29が襲う「軍都」豊橋

豊橋は、軍都（ぐんと）」とよばれた。明治 17 年に歩兵第 18 聯隊（れんたい）、明治 41 年、第 15 師団（しだん）設置に伴い、騎兵隊・工兵隊・憲兵隊などができた。大正 14 年、師団廃止後に教導学校、後に予備士官学校。昭和 18 年に大崎島に海軍飛行場、昭和 19 年に大清水陸軍飛行場などがおかれた。

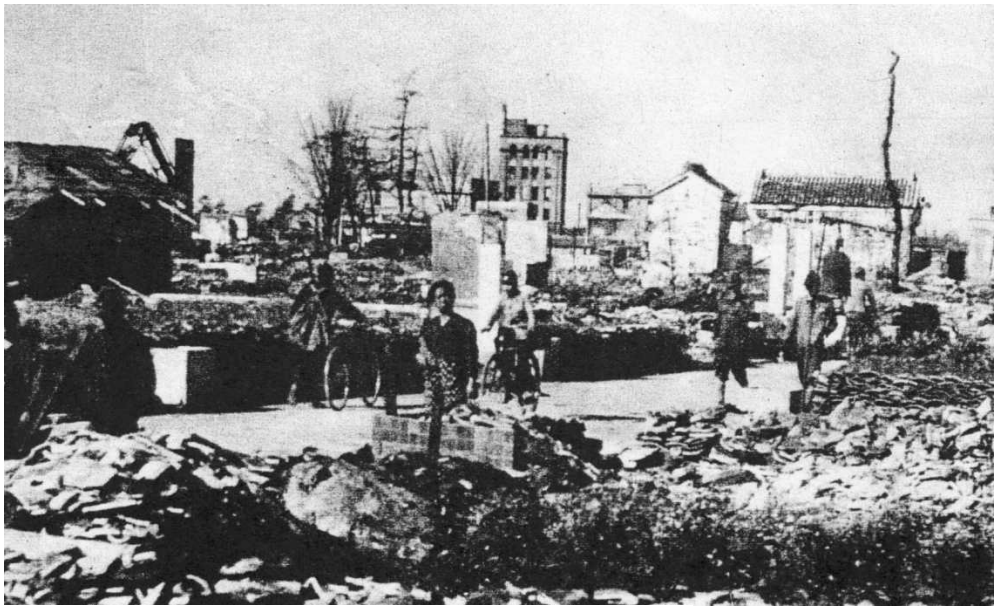
B29 の攻撃に、吉田城址の旧歩兵第 18 聯隊（れんたい）や現愛知大学にあった陸軍予備士官学校などは、戦災をまぬがれた。

家庭用防空壕づくり『大空襲　郷土燃ゆ』
静岡新聞社刊　宮沢長久氏撮影

空襲に向けて作った防空壕・焦土豊橋

人々は、空襲から身と財産を守るために防空壕を作った。防空壕は、土を掘り下げしっかり作ったものもあったが、多くは焼夷弾の熱と爆風で焼けたり、崩れたりした。逃げ込んだ防空壕で蒸（む）し焼きになった人もいた。

B29 の空爆終了後も、5 時間にわたり火災が続き、豊橋は焦土と化した。



豊橋空襲数日後の札木町の様子　豊橋市中央図書館蔵

非国民（ひこくみん）

焼け跡に残っていた銅製品の横に「非国民」の看板が置かれたという。供出をしなかった人を誅（ちゅう）する看板であった。

腹いっぱいの食事・安眠できる夜、当り前の生活・・・。人々は、平和を切に求めるようになった。

豊橋空襲の記憶・羽田光江さんの場合

豊橋市魚町に住んでいた羽田光江さんが、空襲にあったのは新川国民学校２年の時だった。焼夷弾の猛攻撃と真昼のような明るさで燃えていく火の恐怖。今も恐ろしい。

疎開させてあったものもすべて焼け、再再疎開。

物のない時代、再利用が当たり前だった。ゴム風船で作った水泳帽や布のランドセルをいとおしんで使った。後にこんなよき時代が来るとは思わなかった少女時代。それ故に今のあり様を嘆く。 ℞もったいない」「工夫」の言葉が当たり前に出てくる。

『出征前の叔父とともに』羽田光江氏蔵

左胸の白布に「名前・国民学校名・血液型」が書かれていた。

伝平商店の一人娘・海軍の水兵さんは出征・深まる軍国色

出征する兵士を送る豊橋市民

豊橋市中央図書館蔵

家の屋号は「伝平商店」。家業は米屋だったが、配給制になり廃業。祖父と母と住んでいた。

幼稚園のころから、家には海軍大崎飛行場で飛行訓練をしている兵隊さんたちが 20 人ほど泊っていた。訓練が終了すると、また次の兵隊が来る、の繰り返しで、その後、皆出征していった。

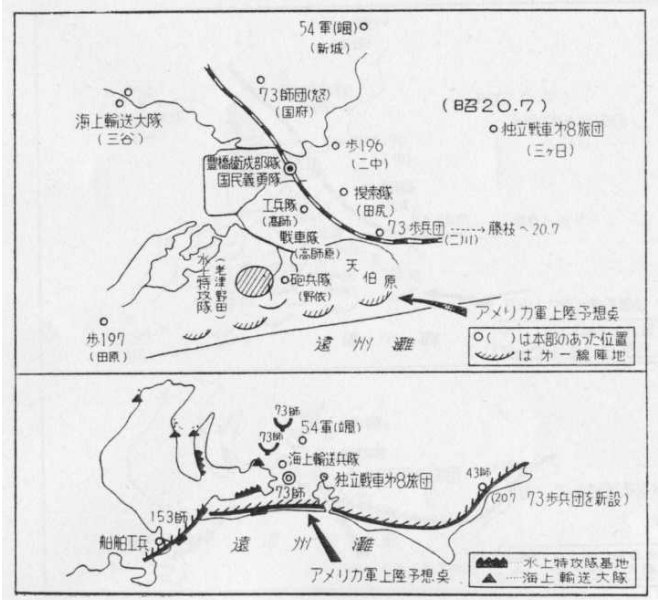
国防婦人会も忙しく、出征の見送りや街頭で千人針作り・バケツリレーの訓練に励んでいた。祖父もゲートルを巻き、町内の世話にかけまわっていた。

本土決戦・空襲警報の日々

1944 年（昭和 19）学校は軍事色一色だったが、まだ穏やかだった。戦地へ出征する兵隊さんを日の丸の旗で見送ったり、首からつった白木の箱を抱えて遺骨が戻ってくると迎えたり、慰問袋に入れる物を見つくろったりしていた。

本土決戦をいうようになってからは、学校行事も何もできなくなった。

突然、爆弾が落ちる。サイレンの鳴る音。目と耳をおさえて机の下にもぐる。そんな日々であった。



本土決戦作戦図　『豊橋市戦災復興誌』豊橋市刊

警戒警報・空襲警報が出ると、急いで下校。勿論、防空頭巾は被着。解除後は、ただちに登校。向かいの家並みは、強制家屋疎開。毎日、空襲警報を聞いた。

建物疎開実施区域

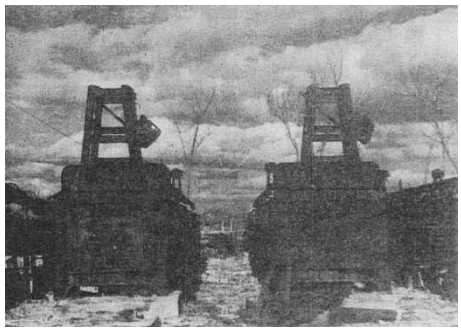
『豊橋市戦災復興誌』豊橋市刊

空襲の夜・水浸しの蒲団をかぶる

6月19日夜、サイレンに気付いて戸外に出ると、空は、まっかだった。B29は、豊橋の周辺部にまず焼夷弾を落とし、逃げられないようにして中心部へと焼夷弾を投下。一網打尽！我家が燃え出すのは時間の問題だった。

急いで、学校の関係のものを家から運び出した。強制家屋疎開の空地に出したミシンの足踏み台に、防空頭巾をかぶってもぐった。

上から何枚も蒲団をかぶり、防火用水の水を何杯もかけて、風呂敷に包んだ位牌をしっかり抱え…ドキドキしながら震えて小さくなっていた。祖父は、家に兵隊用の蒲団が多くあったのを運び出し、蒲団に水をかけては「これをかぶりん」と言っては逃げていく人に渡していた。



空襲で焼けた工場『豊橋市戦災復興誌』豊橋市刊

火の雨が降る！家が燃える！

周り一面、火が迫ってきた。水をまいても効かない。蒲団に火が付くと遠くへ投げ捨てる。新しい蒲団に水をまく、捨てる、の繰り返し…が、続いた。

焼夷弾の落下が激しくなった。火の雨が降る！爆音と家の崩れる音、人の悲鳴！蒲団の裾から覗くと、周りはまっか！目の前で、家が燃えるのを見た。火あぶり状態だ。ものすごい音と火の粉を振りまいて、我家が崩れていく！

敵機は去った。豊川に死体が浮いていた！と、後から聞いた。火の勢いを逃れたい一心で、豊川の対岸へ向かった人が多かったという。川岸や橋で多くの人が亡くなった。

焼け跡のヤミ市　豊橋市中央図書館蔵

再々疎開・機銃掃射におびえた日々

次の夜、親戚の家に身を寄せた。翌々日、小坂井へ。7月宝飯郡長沢村（現豊川市）へ。知人の物置小屋を改造して住んだ。

転校手続きに行ったら、赤い服を着ているのは、羽田さんだけだったという。国防色に染めるよう、すぐ指導された。

なぜか？わけはすぐ分かった。長沢は農村部だったので、1人でいても機銃掃射でねらい撃ちにされた。国防色の服は、敵に襲われた時、畑や木に隠れて見えにくい。それでもよく機銃掃射にねらわれた。逃げても逃げても追ってくる。あの恐ろしさを、今も忘れない。

8月15日終戦。空からの恐怖は消えゆっくり眠れたが、食料難は益々ひどくなった。学校でイナゴを捕り、佃煮にして食べた。足が口に引っ掛かって食べにくい。今も時々思い出す。

何でもお金で解決する現代。物不足の時代を生きて来た証として、体験を伝えねばと思う。

豊川海軍工廠勤労動員経験者　土屋金市さん

豊橋空襲と空襲後

豊橋市花田町に住んでいる 3 人の方に豊橋空襲とその後の様子をお聞きした。

土屋金市さん・焼夷弾を燃料にして

銃剣術用の木銃を見て「懐かしい」。よく木銃で、つきの練習をしたという。当時を思い出しながら実演。

豊川海軍工廠では、火工部に所属していた。1945 年（昭和 20）6 月、龍拈寺（豊橋市関屋町）に泊まり込み、竹やり訓練をして過ごしていた。

すぐに豊橋空襲。龍拈寺は全焼。

戦後、不発の焼夷弾を風呂の燃料に使った。焼夷弾は、魚の煮凝りや生ごみのような「ねばねばの油」が詰まっていた。その油を利用した。焼夷弾から信管を取り処理したので、安全。信管は硬い所に落ちると油が飛び出て火が点くが、柔らかな場所（田・池）だと大丈夫。B29 は、脱去する時アルミのテープを落としていった。電波妨害用であったという。

曽谷恵子さん・豊川沿いを前芝に逃げた！

自転車に荷物をのせて避難した曽谷恵子さん

女子挺身隊が始まる前だった。働いていないといずれは徴用されると覚悟していた。そこで、現在の駅西サーラビル近くの大日本兵器第 3 製作所の事務員になった。終戦後は、菰口に工場を借りて残務整理にあたった。

空襲の時は北島に住んでいた。最初は消火に努めたが、効き目がない。自転車をひいて、前芝へ川沿いに逃げた。ふと振り返ると、豊川の堤防を兵隊さん達も逃げて来た。

焼夷弾の音と爆ぜる建物の音が忘れられない。

羽田野敏治さん・勝ち抜くぼくら少国民」

空襲の話をする羽田野敏治さん

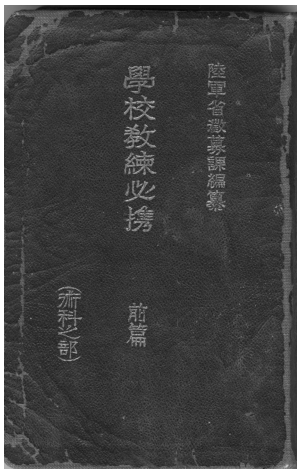
花田国民学校の時、警戒警報が出れば通学団で歩いて帰った。今みたいにだらだら歩きでなく、歩き方を訓練されていた。防空頭巾は必需品。「勝ち抜くぼくら少国民」をよく唱和した。

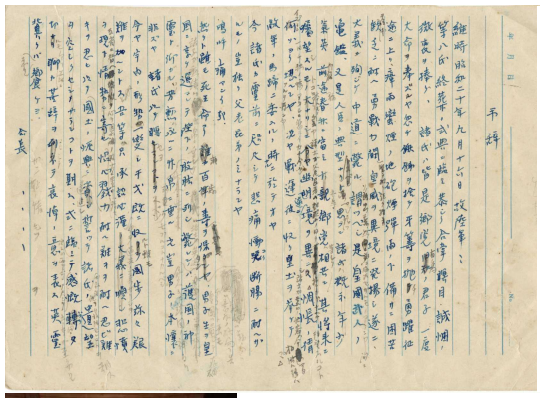
6 月 19 日、豊橋空襲。学校は、兵隊が寝泊りしていたので消火活動ができ、焼けなかった。空襲は麦刈りの後だった。麦わらを井戸に浮かべ、蒲団や衣類などを入れて、火災から免れた。元和年間（1615～1624 年）から続いた家なので、先祖の位牌も 40 以上あり。風呂敷に位牌を包み防空壕へ避難した。本当に食物がなくなったのは終戦後。空き地があれば、サツマイモを植えた。

爆弾の落ちた後、大きな穴ができ、水がたまると泳いで遊んだ。薬莢は遊び道具だった。焼け跡から拾ってきた窓の戸車を使って、コマを作り遊んだ。遊ぶものは自分で作った。

豊橋の復興

ポツダム宣言を受諾後、早速、戦災復興計画がまとめられ、新しい「まち」づくりが始められた。





終戦後、檀家合同で戦死者の慰霊祭をした。その時の住職の弔辞原稿　浄慈院蔵

戦時中の『学校教練必携』代用品の陶製湯たんぽ。　山澄和彦氏蔵

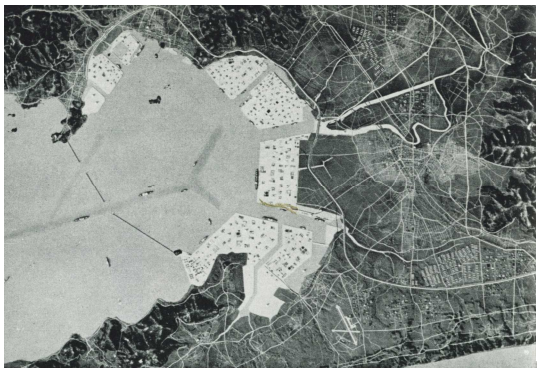
社会制度ががらりと変わった。GHQ の下、墨塗りの教科書・633 制・農地改革・新憲法制定などが矢継ぎ早に施行された。

1955 年（昭和 30）町村合併促進

二川・石巻・高豊・老津・前芝村、賀茂・杉山地区、豊橋市へ。
上 ·右 『豊橋の 60 年』豊橋市刊

世界につながる豊橋港へ

東三河工業整備特別地帯
三河港が重要港湾に指定



のびゆく豊橋

焦土と化した豊橋。いち早く戦災復興をなしとげた豊橋は「戦災復興事業優良都市」として建設省から表彰された。

豊かな豊橋の象徴
上：市電の走る町
左：シンボルロード
右：駅中心
『校区のあゆみ』
新川・八町・松葉
各校区総代会刊

「平和・交流・共生都市宣言」・豊橋

2006 年（平成 18）豊橋 100 周年を機に宣言